

第5回「こんにちは！市長です」開催概要

開催日：令和6年8月28日（水曜日）18時30分から20時20分

開催場所：総合福祉保健センター2階 講座室

参加団体：さんだ子どもまんなかネット（子ども食堂主催者の会） 11名（8団体）

【人材】

- ・ボランティア、サポーターが根付いてくれないので、そのような人材を行政が窓口となって紹介してくれるような仕組みがほしい。共働きが多く、朝から手伝ってくれる人がいない。次の担い手を育成することが課題。
- ・手伝ってくれる学生さんを繋いでほしい。学習支援を継続できる仕組みがあればありがたい。

【お金】

- ・他市では、光熱水費・施設使用料・食材購入費など、様々な経費を対象に補助金を出しているところがある。三田市でも、各所で子ども食堂が立ち上がりつつあり、いい文化が育っている。金銭的な支援があれば、より食堂が立ち上げやすいと思う。また、使途に制限のない金銭的支援があれば嬉しい。お金があれば、プラスアルファでデザート1品などつけることができる。次に続くような、希望が持てる食堂になればいいと思う。
- ・申請報告が複雑ではない、使い勝手の良い運営費の補助がほしい。補助には上限があっても構わない。
- ・有償ボランティア化できるように補助がほしい。少しでもお礼が渡せると、学生ボランティアが根づきやすい。善意の搾取では、これまでのように続けていくことができない。
- ・企業の補助に応募するが、全国的に子ども食堂が増えていることもあり、落選することも多くなってきた。
- ・企業からの寄付金などの支援は不定期なので、そういった寄付が無い年は一気に運営が厳しくなる。先が見えにくく、運営がずっと不安定であることが継続するうえで課題だと感じる。

【運営の形態】

- ・子ども食堂主催者がいつでも取りに行ける市内の場所に、生鮮食品や野菜など一括管理できるフードパントリーがほしい。場所は既に確保しているので、冷蔵庫・冷凍庫・ラック・セキュリティーキーなどがあればできる。在庫管理が必要になるので、在庫管理をしてくれる人の人件費を補助してほしい。
- ・子ども食堂の運営者側が高齢化している。寄附いただく食材を運ぶことも難しくなっている。
- ・例えば、公共施設を利用して子どもを預かり、そこにボランティアとして参画できるような参加型の場があればよい。

【その他】

- ・「子育てするならゼツタイ三田」を復活できるような、子どもに光を当てる支援策を検討してほしい。
- ・三田市全体で子どもの問題をフォローできるような仕組みがあればよい。
- ・地域と学校との連携は大切。お互いの協力がないと支援は難しい。

【子ども・保護者・支援者たちの現状】

- 子ども食堂は、「いろんな人がお手伝いに来られる場所であり、社会に出るための再生のワンステップになる場所」にもなっている。家に閉じこもりがちの人に子ども食堂は「外に出るいい機会」となっていて、その人に有償ボランティアになってもらったら、それが仕事をする自信につながり、今年就職することができた。そのような変化を目の当たりにし、嬉しく思っている。
- 自身の住んでいる地域を活性化するためには若い人たち・子どもたちが必要だが、年々いなくなっていく。子どもを育てやすい環境を整えることは大切である。
- 子ども食堂は食事をとる場所だけでなく、本当の「居場所」になっていると感じる。
- ヤングケアラーの子は、「お手伝いしてえらいね」と声かけされるが、本来子どもがしなくてもいいことをしており、「子どもらしさ」がないように感じる。心に寂しさを抱えている子が増えているなどと思う。心の栄養をもらいに、子ども食堂に来ている子もいる。そういった子どもをフォローできたら良いと思う。
- 学校が子どもの様子を把握しきれなくなってきたように感じる。子ども食堂は、学校ではキャッチできない子どもの様子を把握する場でもある。水面下で問題を抱えている家庭や困り感のある子どもが地域にいる、という実態がある。子ども食堂で、熱意をもってアプローチしていけば、救われる子はいる。
- 里親が預かっている高校生の子で、子ども食堂に来ることで、アルバイトすることに繋がった。そういった繋がり場になっている。
- 子ども食堂の中で、子どもたちに「今日の食事は、まだ食べられるけど廃棄しないといけない食材を使っています」、「お皿の汚れを（使い古しの）布で拭けば、皿洗いの水を使う量を減らすことができます」といったことを教えている。教えたら、幼稚園の子どもも、皿を布で綺麗に拭いている。そういったことを子どもに伝えていくことは大切なことだと考えている。
- ひとり親の家庭で、子どもの分の食事は頼むが、母の分は頼まないといった家庭も多く、困窮している様子がうかがえる。夏休み中、昼食を食べない子どもも多かった。子どもの貧困が増えているように思う。
- 子どもとその親で「朝食を食べること」に関しても認識の乖離がある。（親が先に出勤するので、用意した朝食を子が食べずに登校することがある。）

【主な意見を受けて（市長から）】

- ・子どもたちに夢と希望を与えてもらい、活動に感謝している。
- ・本日、共通の課題・各食堂の課題や想いを聞かせていただきました。
- ・市が直接できること・できないことはあるが、社会福祉協議会との連携も含めて、システム化や仕組みづくりを進めていくことも必要ではないかと考えている。企業の発掘も含め公民連携などで、食材・人材、また一括倉庫などがうまく回る環境となるようなプラットフォームの仕組み作りなど、スピード感を持って検討していきたい。

いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。